

島原城(森岳城, 高来城)(市指定史跡, 百名城)(島原市城内 1)

島原城（しまばらじょう）は長崎県島原市城内にあった日本の城である。別名、森岳城、高来城。

概要

有明海に臨み、雲仙岳の麓に位置する。城郭の形式はほぼ長方形の連郭式平城で、高く頑丈な石垣が特徴である。本丸は周りを水堀で囲まれており、二の丸と廊下橋形式の木橋一本で繋がれている。橋を壊せば本丸を独立させることが出来るが、逆に袋の鼠状態になり、しかも廊下橋は、防備上矢玉が当たりにくくなるので、縄張りの欠陥とも言える。同じ事例に、高松城の天守郭（本丸）がある。また、天守は破風を持たない独立式層塔型 5 重 5 階（初重の屋根を庇として 4 重 5 階とも）で最上階の廻縁高欄を後に戸板で囲ったため「唐造り」のようになっていた。

江戸時代は島原藩の政庁であり藩主の居所であった。成立当時の領主である松倉氏の知行は 4 万石であったが、総石垣で天守と櫓 49 棟を建て並べた。火山灰や溶岩流でなる地盤での普請工事は困難であったとされ、関わった領民の一揆を引き起こす一因となった。

明治以降は廃城処分となり建物などは撤去され、現在は本丸に天守・櫓・長塀が復興され、城跡公園となっている。

歴史・沿革

江戸時代

- 1616 年（元和 2 年）有馬直純が日向国延岡藩に転封になり、代わって松倉重政が有馬氏の居城であった日野江城に入城する。
- 元和 4 年（1618 年）日野江城は手狭であったので島原城の築城を開始する。
- 1624 年（寛永元年）島原城完成。
- 1637 年～38 年（寛永 14 年～15 年）初代重政、2 代勝家の圧政により島原の乱が起こる。勝家は領内を騒乱に導いた責により斬首。松倉氏は改易となる。
- 寛永 15 年、高力忠房が 4 万石で入封。以後、譜代大名が 4 家入れ替わる。

近現代

- 1871 年（明治 4 年）廃藩置県により、島原県となる。この時の藩主は松平（深溝）家であった。
- 1874 年（明治 7 年）廃城令により、廃城処分となり土地建物などが民間に払い下げとなる。
- 1876 年（明治 9 年）、天守以下建造物が破却される。本丸は畑地となり、三の丸には島原中学（現・島原高校）など学校が建ち並んだ。
- 1960 年（昭和 35 年）西櫓復元。
- 1964 年（昭和 39 年）天守復元。キリシタン資料・藩政時代の資料を展示する歴史資料館となっている。
- 1972 年（昭和 47 年）巽櫓復元。巽櫓は地元出身の彫刻家・北村西望の作品を展示する西望記念館となっている。
- 1980 年（昭和 55 年）丑寅櫓、長塀復元。
- 1996 年（平成 8 年）雲仙普賢岳噴火災害を伝える「観光復興記念館」開館。
- 2006 年（平成 18 年）4 月 6 日、日本 100 名城（91 番）に選定された。

遺構

建物

城内に再移築された建造物として、御馬見所（おんまみしょ）がある。また、搦手門であった諫早門の門扉が城内の民具資料館丑寅櫓の中で展示されている。この他、雲仙市小浜町の歴史資料館に二の丸御門が、市内本光寺町の本光寺常盤歴史資料館に三の丸にあった御茶屋常磐御殿が、それぞれ移築され現存する。

